

高校生と

創る演劇

Yに

Y NI UKABU

浮かぶ

2020 11 / 7 土 8 日

報告書



令和2年に、面白く生き物と出会って



テキスト・演出 藤原佳奈 nizen

「子ども」という存在は、社会に作られたものだ。「子ども」と言われるから、「子どもらしく」振る舞うことを要請される。自分の十代を振り返って思うと、甘えたり、分らないフリをして誤魔化したり、都合よく「子ども」の立場を利用してきたことはあったが、「子ども扱い」されて気分が良いことは一度もなかった。こちらに斜め下に向かってくる矢印に、心地良いものはない。だから、高校生に対しては、できるだけ、一対一の個人として関わろうと、挑んだ数カ月だった。マスクで半分覆われた顔同士であったとしても。

「高校生と創る演劇」というこのタイトル。このタイトルが好きだった。高校生が創るでも、高校生に創ってもらうでもない、「と」創る。でも、実際どうやって、この「と」を目指せばいいか、最初のうちは分からなかった。

こちらは彼らよりも長く演劇をやってきたわけで、そのやり方を伝えたり教えたりするだけだと、指導するもの／されるものの関係で終わってしまう。どこか、こちら側が彼らについて行くような関係性も持てないか。そう思っていた。

稽古が始まってしばらくして、ある教室のシーンをブラッシュアップするために、「授業が始まる五分前」のエピソードを試したことがある。すると一瞬でそこに「令和2年の高校生」が立ち現れた。椅子の座り方、話さず姿勢、喋るトーン、目くばせ。私たちがどう真似をしてもできない、今高校生時代を生きる生き物の姿がそこにあった。当たり前なのだが、彼らはまさしく「高校生のプロ」だったのだ。「高校生のプロ」と「演劇のプロ」で、「と」を結ばばいいのだと、腑に落ちた瞬間だった。

そこから積極的に「高校生のプロ」に頼ることにした。シーン削りのヒントのため、劇中のキーワードになる言葉から、連想する言葉も思いつく限り書いてもらうというのを何度も試した。例えば、「雨」から皆が連想したのは……「なみだ」「めがねの敵」「流しそうめん」「人影」「儀式」「よければ」「鏡」など。めちゃくちゃ面白い。一つの言葉から人によって広がる景色が違って、それぞれにしか出せない言葉ばかりだった。(この時書いてもらった

紙は、今も大事に取ってある)

1分間で思いつくだけ言葉を紙に書いてもらった後、書いた言葉を自由に発表してもらい、ホワイトボードを言葉で埋めつくす、というのをやった。しかし、この時、積極的に言葉を出してくれる人は少数で、「自分のは面白くないかも」「なんか違うかも」と尻込みする人が多かった。そんな彼らの紙を覗いてみると、すでに言葉はびっしり書いてあるし、その人らしい言葉ばかりが並んでいる。一人一人の紙を覗いては、書いているものは全部面白いのだ、ということも伝えた。回を重ねていくと少しは発言しやすくなったが、これは、象徴的な出来事だと思った。

遊びのモードがノッている時にはアイデアを出したり、発言する姿は生き生きしているのに、「評価されるかも」「誰かと比較されるかも」「自分だけが間違ってるかも」というスイッチが入った瞬間に、蓋を閉じてしまう、という場面に多々出くわしたのだ。せつなく持っているモノを、サツと後ろに隠してしまう。とてももったいない。私は心底腹が立った。皆それぞれに違う身体で生まれ、違う道を歩み、違う感受性があり、誰もすでに創造的で、遊びがノリさえすればそれが発揮されるのに、彼らは、社会から何度も「遊ぶモード」を殺されてきたんじゃないか。彼らを委縮させているこの社会、そして、この社会を内面化している自分自身に対して、これを書いている今でも腹が立っている。

じっくり高校生と関わると、じつくり高校生と関わると、全員面白い。当たり前だけど、生きていくものは皆面白い。



全国に飛び火してほしーこれからの学びのカタチ

日々の景色がより一層輝くことを願って



演出助手 佐藤路子

みんなのことを思い出すと、身体がヒリヒリする。世界を全身で感じている、まだ皮の薄い人間に同期するからだと思う。すぐに泣いてしまいそうな、はちぎれて中身が飛び散りそうな身体。

初めのころの稽古で、演出チームが何か言うとか高校生たちは「ハイッー!」と、声を揃えて大きな返事をした。話を聞いているときは、体育座りから体を崩すことがなかった。きつと、それをよしと教わってきたから。当たり前だけれどそんなものは別に「よし」ではない。大人側が扱いやすいようにしているだけの、こんな戦時中からあるようなルールを、令和の高校生は今も当たり前のように実践している。その柔らかい体に叩き込むようにして、高校生の発言のなか、彼

らの悩みのなかなどにも、「そんなのは君らのせいじゃなくて社会のせいなんだごめんー」と思うことがよくあった。こんな、なんの罪もない若い人たちを息苦しくさせている社会。…高校生と関わるなかで「今の社会をより良くしていくのは自分たちなんだ」と心から思えた。

高校時代に、家と学校以外で大人と関われる場所があるのは素晴らしいことだと思う。今回の企画に参加できた高校生にとってはもちろん、我々大人たちにとっても非常にいい機会だった。眩しく変化する彼らを見ているうちに、私も彼らと同じように、なんでもどんどん吸収し、学び、変化し続けられる存在なんだ、とはつきり気付かせてもらった。このような企画が、全国各地に飛び火したら嬉しい。一人でも多くの高校生が参加し(WinWin)、地域を元気にし(WinWin)、そして多くのアーティスト(大人)が私たちと同じような経験ができたら最高(WinWin)。これからの時代にぴったりの学びの形だと思っ。

「高校生と創る演劇」、この素晴らしい企画に参加させていただいたこと、そして無事上演まで漕ぎつけたことに心から感謝します。実現に向け関わってくださった全ての皆様、ありがとうございました。

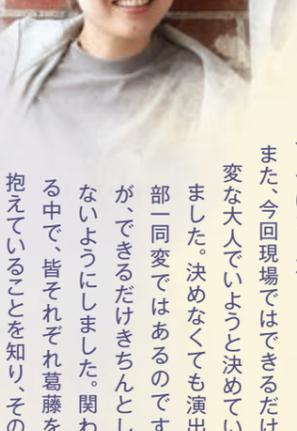


演出助手 佐藤幸子

今年は何と云って、も、コロナ禍での稽古、本番ということが大きかったです。

オーディションも5月から8月に延期になり、稽古を開始できるのか、幕を開けることができないのか、誰もわからないまま進んでいきました。稽古中もマスクが必須で、息苦しさや口元への意識がマスクなしで演技をするのとは随分違ったでしょうし、また、表情が見えないことも稽古に影響しました。「コミュニケーション」が取りやすいお昼休憩も、マスクを外しているため距離をとり、静かに黙々とご飯を食べる姿がとも印象に残っています。今までだったら気にせず出来ていたことが出来なくなっているのだということは何度も実感する日々でした。

そんな中でも高校生たちは真っ直ぐに稽古に向かい、吸収し、成長していきました。そのスピードは凄まじいものでした。それはスタッフの子たちも同様で、自分たちに何が出来るか考え、行動している姿はとても頼もしかったです。なかなかできることじゃないよ…ということを高校生たちは当たり前のように



やっていました。また、今回現場ではできるだけ変な大人でいようと決めていました。決めなくても演出部一同変ではあるのですが、できるだけきちんとしないようにしました。関わる中で、皆それぞれ葛藤を抱えていることを知り、その中には胸が張り裂けそうに

なるものもありました。社会に適応しなければと思い過ぎている彼ら彼女たちに「社会」からちょっとやさっとずれていても生きていけるということが伝われば良いなと思いました。演技についてどう伝えるかやそれぞれの課題をどう乗り越えるか、作品のことももちろん思考しましたが、もしかしたらそれ以上に、彼女たちの日常やこれからのこと、一人一人の性質について思考を巡らせたかもしれません。

本番が終わったあとも、それぞれの日常は続いていきます。この企画に参加することで、たくさん新しい価値観やことばに出会ったであろう高校生たち。彼女たちの日々の景色がより一層広がり、そして輝くことを願っています。

Yに浮かぶ

Y NI UKABU

創る演劇

出演者紹介

- 1 他己紹介
- 2 作品に出てくる中で好きな民話
- 3 自分の役について



Tada

加我羽菜…「タダ」

- 1 落ち込んだ雲間気の際に、スパンと言ってくれるみんなの姉的な存在です(笑)
- 2 劇中ではどんな言葉も放つのか!? (伊藤)
- 3 私に似ているところが多いので、なんで教室で私の顔が知れたからですか? (笑)

単語の語順が私とは全然違って、覚えるのにとっても苦労しました。



Iwamoto

伊藤大晃…「ウツシー」

- 1 ムードメーカーっていう言葉が似合う人。また、とても素直でいつも笑顔がとつても素敵な彼を、ご覧下さい!
- 2 お司橋です。切ない! この一言に尽きます。(大久保)
- 3 まさかこんな役をやる事になるとは…頑張る自分と対局の存在なのは…頑張るしか!



Miyata

平田舞那…「メグタ」

- 1 いつも元気でパワフルで場を明るくしてくれる存在で、繊細な面もあって気を配る優しい素敵な人です。
- 2 傾城塚です! メグタを演じるために、傾城塚のことをたくさん調べています!
- 3 メグタは、明るくて元気! でも実は色々考えてるんです。体験しました。メグタ!



Ishii

石井綾華…「ヨッコイ」

- 1 天真爛漫な愛されヨッコイ! そんな時はキラキラ。太陽のような笑顔の持ち主。この民話は4つの中で唯一誰も死なないで、山が背比べしている平和な民話だからです。
- 2 私の演じるヨッコイは、見つけられただけ、お化けや幽霊が怖い所と少しドジな所があつて可愛い、演じて楽しかったです!



Imamura

今村絆那…「マキサン」

- 1 はんちゃん、何か別のものが見えてそうなお感じがします。
- 2 お司橋です。七夕より現実味を帯びたお話で、幽霊が見える不思議な子です。



Suzuki

鈴木伸乃香…「ヒミ」

- 1 のさんとは2ヶ月程一緒に稽古させて頂いているんですけど、常に笑顔なんです。稽古場ではいつもムードメーカー的な存在です。(川喜田)
- 2 真面目だったり、とっても乙女だったり、いろんな顔が見れる女の子です!



Ohsuka

大久保奏美…「アスカ」

- 1 私のかなみんのイメージはまんまアスカで、たまにアスカって呼び方になる(笑)
- 2 傾城塚です。他の人のために自分を犠牲にして、アスカのモデルとなった演出助手の路子さんから聞いたお話を通して、



Akashi

赤石さくら…「キョン」

- 1 愛称さくらちゃん! 演劇に対する熱意が持っている人です。めっちゃ素敵なおじや丸の電車の声真似が最高にうまい(笑)
- 2 山の背比べです。山ほど大きなものを素直に抑圧されながら見習いたいです。ユミ以外の会話がないので、周囲との関係性を知らなくて大変でした。



Fujita

藤田理子…「ノリコ」

- 1 ぱっちりな目と笑顔がとってもチャーミング! 心が真つ直ぐで、大人っぽくて、そんなところが魅力的なんです。(山本)
- 2 傾城塚。大衆のために自分を犠牲にするなんて、孤独を感じていたり…私に普段、思っているけど人に話してこなかったことを、すはっと言ってくれる人が好き!



Hara

荻原花音…「スマイル」

- 1 花音さんは、とても愛嬌があり、役を忠実にこなしています。
- 2 お司橋。会える距離なのに会えないのが切ない。愛着が分かってるところがあるので、稽古を頑張りました。



Kurosaki

山本あい…「コロ助」

- 1 あいちゃんは物静かな雰囲気なのにめっちゃ面白いところがあつて、山が背比べをすすめるといってシチュエーションが、とても面白いからです。頑張って演じたいと思います。



Kawashima

川喜田涼真…「ミズタ」

- 1 演じるときに声量が人一倍大きくなります。普段はおとなしめですが、切り替えが早いんです。(赤石)
- 2 山の背比べ。山が言い争っているのが好き。日常生活の中で自分が他人と接している感覚で、表にさらけ出す演技をしなければいけなくて

Schedule 2020

2月9日[日]	募集告知開始
4月19日[日]	オーディション申込締切
8月11日[火]~15日[土]	オーディション・ワークショップキャスト確定 キャスト希望23名、スタッフ希望3名、計26名の応募があった。 本年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、3~4名の少人数グループでオーディションを実施。オーディションはディベートやエチュードなどそれぞれの個性が垣間見えるワーク、ワークショップでは身体表現や擬音を用いて歌を作ったり、シアターゲームを行った。このオーディション・ワークショップを通してキャスト12名、高校生スタッフ9名の参加が決定した。
9月4日[金]	自主練習開始
13日[日]	ボイストレーニング
14日[月]	スタッフオンライン打ち合わせ
21日[月・祝]	チラシポスター完成
26日[土]	チケット発売開始
10月3日[木]	舞台美術ワークショップ、スタッフ打ち合わせ
8日[木]	衣裳ワークショップ
9月28日[月]~10月4日[日]	1週目
10月5日[月]~11日[日]	2週目
12日[月]~18日[日]	3週目
19日[月]~25日[日]	4週目
26日[月]~11月1日[日]	5週目
11月2日[月]~6日[金]	6週目
11月7日[土]	◆13時・入場者134名 / 18時・入場者108名
8日[日]	◆13時・入場者143名 / 17時・入場者88名
2021年 2月16日[火]	●総入場者数 473名



オーディション



ボイストレーニング



自主練習



舞台美術



本番映像上映会

稽古開始前:

「高校生と創る演劇」は2020年度で7年目となる。コロナウイルス感染症の影響を受け、例年5月に実施していたオーディションは8月に行われた。9月上旬、稽古開始前までの期間で高校生のみで取り組む自主練習や発声ワークショップを経て本稽古に臨んだ。テキスト・演出の藤原佳奈さんは、7月下旬から9月にかけて豊橋に何度か訪れ、テキストの軸となる豊橋の民話についてリサーチを重ねた。

稽古 第1週目

●9月28日(月) — 10月4日(日)

自主練習最終日に待ちに待った配役が発表された後、稽古初日は作品の内容や演出部が大切にしたいことを共有し、話し合いの時間が設けられた。今まで出会ったことのない考え方が新鮮で、これから起きることに各々思いを巡らせた。まずはコの字型に机を並べ、テキスト読みをすることから始めた。10月3日には舞台美術の杉山至さんによるワークショップを実施。枯れ木や石など自然物を用いて短い物語を創作した。「Vに浮かぶ」のテキストから、景を想像して意見を出し合ったことは、作品を深める上で有意義な機会となり、今後の創作にも大きな影響を与えた。

稽古 第2週目

●10月5日(月) — 10月11日(日)

舞台美術の大枠が決まり、自然物を使うなどのように表現するのかを模索していく。小道具として木や葉っぱ、石を使うことに興味津々であった。また、衣裳の田島由深さんによる高校生スタッフ向けのワークショップでは、役のイメージやテキストからの情報を書き出し、それぞれに合う衣裳を考えた。最初から作品を固めずに、あらゆる角度から捉え、演出部と高校生とで意見交換を重ねながら作品創りが進んでいく。稽古終わりにはフィードバックの時間を欠かさず設け、自分の意見を発言することやみんなの声に耳を傾けることを大切にしたい。

稽古 第3週目

●10月12日(月) — 10月18日(日)

演出部から高校生へ、セリフを完全に覚える課題が出された。身体を動かしながらでもセリフを言える120%の状態を目指す。テスト週間中であるこの時期は、稽古場の脳に机を並べ、合間に勉強をしながら稽古に参加した。自分の殻を破れずに悔しい思いをし、時には落ち込みながらも、稽古終了後に積極的に抜き稽古に取り組んだ。その結果着実に成長していき、役に馴染んでいく姿が印象的であった。本

稽古 第4週目

●10月19日(月) — 10月25日(日)



番の会場となるアートスペースで初めて稽古をしたのもこの頃。いつもの稽古場とは違う声の響き方を体験し、初めは戸惑いもあったが、本番と同じ舞台上立つことで気持ちが高まった。

稽古 第5週目

●10月26日(月) — 11月1日(日)



10月25日を、仮の本番に設定し、この日に本番同様に上演できるように稽古に取り組んできた。午前中に衣裳ハレードをしてキャラクターを確立させ、午後に本番同様の通しを行った。今持てる最大限の力を出し切ったことが高校生たちの自信に繋がった一方で、新たな課題も見つかり、さらに研鑽を重ねていくこととなり、作品の輪郭がはっきりとしてきたことで、高校生スタッフの仕事が具体的に、担当する仕事がかかれていった。

稽古 第6週目

●11月2日(月) — 11月6日(金)

11月3日に家族や友人など関係者を招いて公開通し稽古を行う。初めて人前で上演する緊張や達成感を味わい、本番時のイメージを膨らませることができた。本作品で重要なシーンとなる、終盤の「雨の歌」は毎日時間を取って猛練習をした。4日5日は場当たりをし、本番前日の6日にはゲネプロを行った。初めての経験にソワソワしながらも、集中して最終確認をしていく。より良い作品にするため、演出の修正は最終日まで行われた。

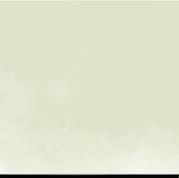
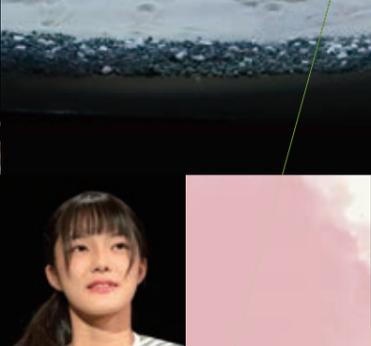
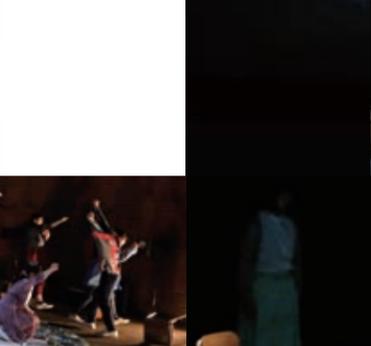




高校生と創る演劇

Yに浮かぶ

Y NI UKABU



高校生スタッフ紹介 (他已紹介(紹介した人))

Introduction

國分柚姫

髪の毛サラサラでつやつや!!
テキパキとこうすれば?!!
ツツツもキレイです。
褒めてくれます!(今村)

Kokubon

壁谷春花

The女子って感じなのに、
物事をスパッと言えたり、
自分の目標をもつて稽古にきていたり、
他人へのアドバイスが的確だったり、
本当に尊敬する
とこだらけの人です!!(加我)

Pariparu

Kae

都築香瑛

豊橋市外の遠いところから
来てくれたためにはるばる
物静かでおっとりとした
佇まいの優しい
お姉さんのような人です。(石井)

岡田野乃佳

のんちゃんはしつかり者! だけど
時々見せるお茶目な
ところもあって可愛いです!
常に周りの事をよく見ていて
みんなをまとめてくれる
存在です。(石渡)

Nonaka

佐藤葵

大人っぽくてクールに見えるけど、
気を遣えるし人のいい所を
たくさん見つけたり、すごく優しく
とてもいい子です!
それに鋭いツツツ!!
めっちゃ面白い!(壁谷)

Sato

石渡鈴乃

すごく優しく話しやすい
高校生スタッフのすずちゃん!!
オアシションのとき話しかけてくれてありがと!!
カッよかったです!(都築)

Suzu

牧沢葵

めちゃくちゃ面白くて、
私が体調が悪くて
声を掛けてくれて、無理しているときに
普段助すかしくて
絶対言えないけどありがと!(佐藤)

Makizaki

スタッフワーク

稽古場や舞台裏で「高校生と創る演劇」を支えた高校生スタッフたち。
全員で協力し合い、それぞれが得意なことを活かして、多岐にわたる仕事を分担した。
プロのスタッフの仕事を間近で見て、手伝い、レクチャーを受けるだけではなく、
時にはアイデアを出して自発的に作品の一部を創り出していった。

Staffwork

稽古記録

毎日の稽古のポイントを記録し、
グループLINEに投稿して
共有を行った。この記録は、
その日に休んでいた
キャストに稽古場の状況を
伝えるだけでなく、
稽古後のキャストの復習にも
活用された。



代役&プロンプ

稽古休みのキャストに代わって、
高校生スタッフが台詞や動きを覚え、
様々な役を演じることで
稽古を円滑に進めた。
また、キャストが台詞を
忘れたときには、
すかさずフォローを行う
プロンプターとして活躍した。



衣裳

衣裳の田島さんと一緒に、
役の個性に合わせた
コーディネート考えた
キャストの採寸や服の買い出し、
衣裳のリメイクなどを行った。
本番期間は洗濯や
アイロンがけなど、
衣裳管理を担当した。



美術

舞台監督の土居さんの
レクチャーを受け、
舞台模型や小道具の
紙バックのイラストを作成した。
またある時は、舞台美術のための
大きな枝や石などの
自然素材を収集するため、
豊橋公園へ出かけた。



舞台監督助手

舞台美術の砂の丘を
トンボを使って整え、
稽古後の舞台面の掃除や
除菌を手分けしながら行った。
劇中の砂が降るシーンでは、
舞台裏で
タイミングを見計らって
仕掛けの操作を
担当した。



照明

照明の山森さんに付いて
練習を重ね、劇中の
ピンスポット操作を担当した。
ほかにも、暗闇の中で
キャストが合唱する
ラストシーンでは、
客席後方から
ライトを片手に
密かに指揮をしていた。



音響

音響の和田さんと
録音を行った。
砂や塩、貝殻、パケツ、
アルミホイル、トタン、
黒板などの日常に
ありふれた物質が、
その素材でしか奏でられない
様々な音を描き出し、
作品に繊細な
イメージを与えた。



ホワイエ装飾

戯曲の題材となった
豊橋の民話を図にして展示したり、
作品のイメージに合わせた
色のテープを編んで
会場の周りを飾り付けた。
ホワイエで流れる音も、
今回のために特別に
録音した音源を使用した。



広報

広報・宣伝活動の二環として、
SNSの投稿や、
街へ行きチラシやポスターの
配架依頼をして回った。
また、映像編集が
得意な高校生スタッフは、
演出部の
インタビュー動画の
編集を行った。



1 8月のオーディション ワークショップについて

●演劇部ではやらなかったことがたくさんできて勉強になった。オーディションは特に自由度が高く、いろいろな方法で自分を表現することができた。初めて体験することはかなり概念が覆され、合否に関わらず応募して良かった。

1 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	7	4	1	0	0
	スタッフ	3	4	0	0	0
キャスト	①内容	7	3	1	1	0
	スタッフ	2	4	1	0	0
キャスト	②内容	8	4	0	0	1
	スタッフ	3	3	1	0	0

●演劇部にスタッフとして所属していて、演技経験が少なく苦手意識を持っていたが、オーディションワークショップは全体の雰囲気が高く、恥ずかしがらずに自分を表現できた。演出チームは私たちを、高校生ではなく一人の「人」として接してくれ、取り組みやすかった。

●ペアでのワークではいろいろな人と関わって、相手のことを知ることができた。演出チームが大切にしていることをワークに取り入れていてとても分かりやすかった。

●ワークショップに参加したことで、作品の雰囲気確かめることができた。

●オーディションはどんなことをやるのか分からなくて緊張したけど、参加してみたらのびのびと楽しく取り組めた。身体を使って大きな文字を書くワークは普段使わない筋肉を使って汗をかいたのをよく覚えていた。ワークショップで等速で歩く練習をしたときはぐらぐらと揺れてしまったが、今は集中してできるようになった。

アンケート 高校生キャスト・スタッフ

●みんなやる気があって、困ったら助けてくれたり一緒に悩んでくれた。1日があつという間に過ぎ、達成感があった。

●プロと演劇ができた経験は大きく、部活とは雰囲気違って楽しかった。これからの自分にとっての指標になった。

●杉山さんの舞台美術ワークショップがとても良い経験になった。正解がないという考え方にははじめは戸惑ったけど、時間を経て理解できるようにになった。

●砂の上で演技をするため、体幹を意識したワークを行ったことが印象的だった。歌を覚えるのは大変だったけど、素敵なハーモニーで歌っているのリラックスできて今でも口ずさんでいる。

4

公演を終えて

公演を終えた現在の感想

●オーディションから本番まで長いようであつという間だった。私は豊橋市外に住んでいるので、この企画に参加していなかったら出会えなかった人がたくさんいる。この繋がりを大切にしたい。稽古は楽しいことだけではなかったけれど、仲間が支えてくれたので全公演堂々と演じることができた。

●学校と家以外の居場所があることが支えになっていたことに気付いた。この企画に参加していたときが一番生き生きしていたと思う。

●演劇部でもいくつか公演をしてきたが、今までのどの公演よりもやりきった感覚がある。砂の上での舞台や本物の自然物を使ったりと初めての経験ばかりで、毎公演どうなるかわくわくしながら演じることができた。この企画をもっと早く知って1年生の頃から参加したかった。

●今はとても晴れやかですっきりとした気持ち。この企画のことを思い出すと、自分はいろんな人に支えられて生きているのだと改めて感じる。今年はコロナ禍ということもあり、それをより強く感じた。今後どのような形であれ、演劇に触れていたいと思ってる。

2 9月の自主練習について

●ワークショップで学んだことをキャスト・スタッフ全員でやることで、気に仲を縮めることができたように思う。高校生と劇の演劇の経験者が仕切ってくれ、話し合うことを大事にして進めていった。成長していくのを実感することができ、充実した時間となった。

2 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	7	4	1	0	0
	スタッフ	4	3	0	0	0
キャスト	長さ・回数	6	5	1	0	0
	スタッフ	2	4	1	0	0
キャスト	内容	5	4	3	0	0
	スタッフ	3	4	0	0	0

●はじめは経験者と初めての参加者間に温度差があったが、1日1回は発言するなどの稽古場でのルールを決めて、みんな取り組めるよう改善していった。自主練習期間後半はいつものメニューに加えてみんなでミニゲームをしたことが思い出しに残っている。

●自分の意見を発言する時間を作ったことで、各自で感じた疑問点を解決したり、自分とは違う感じ方を知ることができ、視野が広がった。

●平日は学校終わりに直行し、休日は1日稽古で大変だったが、慣れてくると毎日稽古に行くのが楽しみになった。みんながぐんぐん成長していくので負けていられないと切磋琢磨できた。

●難しい役で苦労したけれど、この稽古期間だからこそ創り上げられたものになったと思う。

3 稽古について

●演劇への熱を最大限にぶつけられる場が見つけられて良かった。この企画で築いた関係は大事にしたいと心から思う。去年は観客として観に行っていたが、今年は参加者として舞台に関われてうれしかった。

●昨年も参加したが、今年はまた違う経験ができ、充実した時間を過ごせた。

この企画に参加することで当初どんなことを望み、何をしたいと思ったか？ またそれらは実現されたか？

●高校最後の演劇大会がなくなってしまったためこの企画に参加することを決めた。演劇が大好きな高校生と、プロの大人たちと二つの作品を創ることができた。

●この企画に参加するのは3回目、今までは違う演出家のもとで演じてみたかった。日々新しいことを得られた。

●演劇のいろいろな仕事を知ることができた。プロの仕事を知近で見ることができ、実際に体験することもできた。

●演技の幅を広げたいと思い参加した。自分と他者との違いを知ったりアドバイスを受け、改善点を見つけることが

4 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	満足度	10	1	0	0	0
	スタッフ	7	0	0	0	0
キャスト	来年 参加したい	4	6	1	0	0
	スタッフ	0	6	1	0	0
キャスト	継続した方がよい	11	0	0	0	0
	スタッフ	7	0	0	0	0

※キャスト=無記入1名

5

今後プラットフォームに対する期待・要望等
ありましたら
ご自由に
お書きください。

●これからもこの企画を続けてほしい。自分
を変えるきっかけになった。終わった今は一緒
に頑張った仲間が友達となり、連絡を取り
合ったり休日に遊んだりしている。こんなに
おもしろい企画を絶やしてほしくない。
●高校生がたくさん参加できるワークショップ
があると良いと思う。



6

高校生スタッフの
仕事について

●雨の音を録音したことが印象に残ってい
る。砂や塩を見殻などに当てて表現してい
て、舞台音響への興味が強くなった。
●照明に関わることができ、プロスタッフと
一緒にいろいろ試しながら創っていくことが楽
しかった。本番もヒンスポットの操作をするこ
とができた。
●コロナウィルスの影響でやれることが限ら
れてしまうこともあったが、その中でできる
ことを探し、より良くなる方法を考えながら
スタッフワークを行えた。
●本番で舞台監督の手伝いができてうれし
かった。
●代役を任せても
らい、想像以上に大
変だったが良い経験
ができた。
●一つの事に限定
して携わるのでは
なく、様々な仕事に
関わることででき
たため、多様な視点
で物事を見つめるこ
とができた。

8
集計結果

高校生スタッフの仕事					
スタッフ	内容	集計結果			
		とても満足	満足	どちらとも いえない	不満 とても不満
		5	2	0	0



新聞記事

東日新聞/2020年11月10日掲載



高校生が観客を制

高校生がのびや

豊橋市立小田原町の種ははし芸術劇場
「高校生がのびや」が、8日
演じた。東三河を中心とする地域から集まった
12人が出演した。
この演劇は、地元がゲスト(脚本)を通じて
の高校生がのびやの演劇を演出した。自分の
劇人になるという思いを込めて、自分なりの
演出を演出し、観客を魅了した。この演劇は、
今年で7年目になる。在籍する、山田、伊藤、
演劇家である。山田、伊藤、伊藤、伊藤、伊藤、
ト「Mishie」の高校生がのびやの演劇は、
代表の俳優さん、山田、伊藤、伊藤、伊藤、伊藤、

東愛知新聞/2020年11月5日掲載

本番へ高校生ら最終確認

7、8日に豊橋で創作演劇
豊橋市立小田原町の種ははし芸術劇場
で5日、6日、7日、8日の4日間、Yに浮かぶの
の通し稽古があった。オーディションを経ては
人の高校生が、本番にむけての稽古を行った。
7、8日の両日公演がある。【山田一】



Yに浮かぶの通し稽古プラットフォームで日

中日新聞/2020年11月7日掲載

豊橋市立小田原町の種ははし芸術劇場
で5日、6日、7日、8日の4日間、Yに浮かぶの
の通し稽古があった。オーディションを経ては
人の高校生が、本番にむけての稽古を行った。
7、8日の両日公演がある。【山田一】



公演のチラシ

高校生ら創作劇

豊橋市立小田原町の種ははし芸術劇場
で5日、6日、7日、8日の4日間、Yに浮かぶの
の通し稽古があった。オーディションを経ては
人の高校生が、本番にむけての稽古を行った。
7、8日の両日公演がある。【山田一】

中日新聞/2020年11月8日掲載



東三河の高校生が熱演

豊橋市立小田原町の種ははし芸術劇場
で5日、6日、7日、8日の4日間、Yに浮かぶの
の通し稽古があった。オーディションを経ては
人の高校生が、本番にむけての稽古を行った。
7、8日の両日公演がある。【山田一】



文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



●特別協賛 **sala** サラグループ

- スタッフ
- 演出助手 藤原佳奈
- 演出助手 佐藤幸子
- 演出助手 山田至
- 演出助手 土居歩
- 演出助手 山藤栄治
- 演出助手 田島匡史
- 演出助手 共田慎性
- 演出助手 中川裕樹
- 演出助手 萩原ヤスオ
- 演出助手 伊藤華織
- 演出助手 山田晋平
- 演出助手 齊藤詩織
- 演出助手 矢作勝義
- 演出助手 長坂奈保美
- 演出助手 石田晶子
- 演出助手 城早之合
- 演出助手 伴朱音
- 演出助手 Eriken
- 演出助手 新海雄大
- 演出助手 内浦有美
- 演出助手 小柳津紀
- 演出助手 寺越隆喜
- 演出助手 六尺堂
- 演出助手 (株)マイド
- 演出助手 エフエム豊橋
- 演出助手 「ライブ」
- 主催 豊橋市
- 企画制作 (公財)豊橋文化振興財団
- 演出制作 種ははし芸術劇場PLAT

※掲載の記事・写真は各新聞社の許諾を得て掲載しています。